

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	広島文化学園大学
設置者名	学校法人 広島文化学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
看護学部	看護学科	夜・通信	0	16	134	150	13	
学芸学部	子ども学科	夜・通信		2	74	76	13	
	音楽学科	夜・通信			27	29	13	
人間健康学部	スポーツ健康福祉学科 スポーツ健康コース	夜・通信		17	19	36	13	
	スポーツ健康福祉学科 健康福祉コース	夜・通信			69	86	13	
社会情報学部	健康福祉学科	夜・通信		8	33	41	13	
(備考) ※社会情報学部は平成30年度募集停止のため、従前の教育課程に基づいて記載								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

広島文化学園大学ホームページ「シラバス情報検索」 ホームページ http://syllabus.hbg.ac.jp/Pages/Guest/GS000/SY601_Find_Subject_Contents.aspx?type=kounai

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)
—

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	広島文化学園大学
設置者名	学校法人広島文化学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

http://www.hbg.ac.jp/info/gakuen/annai/annai.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	前：(株) 広島バスセンター 代表取締役社長	2020.6.1 ~ 2023.5.31	総務・企画総括
非常勤	現：(株) 大之木ダイモ 相談役	2020.6.1 ~ 2023.5.31	教育・研究
非常勤	前：中国総合信用(株) 相談役	2020.6.1 ~ 2023.5.31	学生生活支援・就職 キャリア支援
非常勤	現：呉市社会福祉協議会 会長	2020.6.1 ~ 2023.5.31	広報・学生募集
非常勤	現：(株) 広島バスセンター 代表取締役社長	2020.6.1 ~ 2023.5.31	社会連携・国際交流
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	広島文化学園大学
設置者名	学校法人広島文化学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業計画(シラバス)の作成については、4学部共通した取組みを行っている。 ○毎年12月に授業担当者に対して本学所定の様式による授業計画(シラバス)作成を依頼する。その際、「シラバス作成上の注意事項」を全員に配布し、「授業の目的」「授業計画」「最終到達目標」「評価方法(複数の指標を使用する場合はその比率数値)」「予習復習の学習方法」「教科書・参考書」を必須記載事項としている。 ○翌年2月に教育課程委員会で「シラバスチェックリスト」に基づいて記載内容を確認し、加筆修正等が必要な場合は、授業担当者による修正を経て次年度のシラバスを確定している。 ○シラバスは、4月1日付けで大学ホームページに公表するとともに、学生に対しては「履修の手引き」及び学内WEBで提示して、シラバスを確認した上で履修計画を立て履修登録を行うよう指導している。 	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページ</p> <p>http://syllabus.hbg.ac.jp/Pages/Guest/GS000/SY601_Find_Subject_Contents.aspx?type=kounai</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4学部に通じて以下のような取組みを行っている。 ○学習意欲の把握については、毎回の授業で出席を確認し、授業ごとの学生のコメントシートを回収するほか、授業での質疑応答への積極的な参加、事前・事後学習の成果の提出状況等により、個々の学生の状況を理解している。 ○学修成果の評価については、厳格かつ適正な成績管理が行われるように、アセスメント・ポリシーにおいて大学レベル・学部・学科レベル・科目レベルで基本的な評価方針を定めている。 ○各科目の評価については、シラバスに表記された試験やレポート等の評価方法・基準に基づき、授業担当者が厳格かつ適正に評価し単位を認定している。また出席管理を厳格に行い、3分の2以上出席していない者には、単位修得を認めていない。これらの単位認定の方針は、「履修の手引き」に明記し、毎年4月のオリエンテーションで学生に周知している。 ○「学修の評価」に関する規定は以下のとおりである。 <p>(1)試験等の評価は、秀(S)、優(A)、良(B)、可(C)、不可(D)をもって表し、可以上を合格とする。(2)成績と評価基準は次のとおりとする。100～90点秀、89～80点優、79～70点良、69～60点可、59～0点不可。(3)不合格の場合、再試験受験願を提出し、認められれば再試験を受けることができる。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○学生の成績評価について学生自身と教員が客観的、総合的に確認し、振り返りを通して次の学修につながるよう、G P Aを指標としている。G P Aの活用と算出方法は、4学部共通である。</p> <p>○G P Aは100が最高値となるよう下記の方法で算出している。</p> <p style="text-align: center;"><u>(秀(S)の単位数×4+優(A)の単位数×3+良(B)の単位数×2+可(C)の単位数)×25</u> 成績評価を受けた科目の総単位数</p> <p>○学生にはG P Aによって自分自身の学修成果を客観的に判断できることを指導している。G P Aが優秀な学生に対しては奨学金給付の対象者としたり、履修登録単位数の上限(キャップ制)の緩和を行ったりしている。またG P Aが一定基準を下回る学生に対しては、チューターによる成績改善指導を行っている。そのために、成績の分布状況を把握できるようにしている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/gpa_univ.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>○大学として、「卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)」を定め、ホームページで公表している。ディプロマ・ポリシーの内容は以下のとおりである。 「広島文化学園の建学の精神「究理実践」に基づき、深く専門の学術を教授研究するとともに、豊かな人間性と総合的な判断力を身に付けた学生に学士の学位を授与する。」</p> <p>卒業時に修得すべき資質能力は、以下の3点にまとめられる。</p> <p>(1)深い教養と人間性を有し創造的態度と志向性を有している。 (2)対人援助に係る専門的な知識・技術や問題解決能力、思考力を有している。 (3)地域の教育、文化、支援など、社会に積極的に貢献できる指導力、応用力を有している。</p> <p>○ディプロマ・ポリシーに基づいて卒業を認定するために、大学レベル・学科レベル・科目レベルの3段階で、学生の学修成果を評価するための方針・内容・方法等を定める「学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)」を策定し、ホームページで公表している。</p> <p>○卒業要件単位数は、社会情報学部、学芸学部、人間健康学部は124単位、看護学部は126単位である。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy.html http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/assessment2018daigaku.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	広島文化学園大学
設置者名	学校法人広島文化学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.hbg.ac.jp/info/gakuen/pdf/zaimusyohyou2020.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.hbg.ac.jp/info/gakuen/pdf/zaimusyohyou2020.pdf
財産目録	http://www.hbg.ac.jp/info/gakuen/pdf/zaisanmokuroku2021.pdf
事業報告書	http://www.hbg.ac.jp/info/gakuen/pdf/jigyou2020.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.hbg.ac.jp/info/gakuen/pdf/kansa2020.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 中期経営計画Ⅳ 対象年度: 令和2年度~令和6年度)	
公表方法: http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/chukei4R03.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/index_top.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.hbg.ac.jp/assets/docs/info/hyouka/pdf01.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 看護学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/1_kyouiku.pdf
(概要) 看護学に係る領域について、関連する諸学問領域と連携しつつ総合的に教育研究し、時代とともに変化する人々のヘルスニーズに対応でき、かつ地域社会、国際社会に貢献する看護職者の育成を目的としている。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/nurse.html)
(概要) 看護関連科目、外国語、基礎看護学、実践応用看護学、専門領域看護論を含む 126 単位を修得し、以下に挙げる資質能力を身に付けた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。 (1) 看護専門職者として豊かな人間性を備え、高い倫理的態度を身に付けている。 (2) 看護専門職者として専門知識・技術・実践力、問題解決能力・思考力を身に付けている。 (3) 看護専門職者としてコミュニケーション・スキルを有し、自己成長する力を身に付けている。 (4) 看護専門職者としてこれまでに獲得した知識・技術・創造的態度を統合し、地域社会に貢献する力を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/nurse.html)
(概要) 看護学部看護学科の教育目的「地域社会に貢献できる専門知識と実践能力を有し、グローバルな視点を持ち生命に対する畏敬の念と倫理観に基づいた行動ができる感性豊かな人間を育成することを目的とする」を達成するために、次のことを意図したカリキュラムを編成する。また、選択型教育課程における特色として 6 つのコースを配置する。 (1) 学修方法 授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかにより、アクティブ・ラーニングを取り入れ、実践を通じた学修を行う。また、授業ごとに週 1 ～ 2 回の予習復習を行うこととする。 (2) 学修内容 1) 初年次には、本学科で学修するうえで必要不可欠な知識・技能・表現力を修得するために「フレッシュマンセミナー」を配置する。 2) グローバルな視点に立ち、感性豊かで倫理観に基づいた行動がとれるための教養教育を、看護関連科学の人文社会科学系科目に配置する。 3) 看護関連科学の医療自然科学系に人体構造と機能、疾患理解のための科目を配置する。 4) 地域社会における問題理解のための基本的視点・考え方を看護関連科学の情報・総合科学系科目に配置する。 5) 看護専門領域の基礎看護学・実践応用看護学・専門領域看護論・看護研究を配置する。また問題解決能力の獲得とキャリア形成に応じて各選択コースの指定の科目を配置する。 6) 看護専門技術を展開するために必要な科目と演習、看護実践能力を高めるための

<p>実習科目を配置し、地域社会に貢献できる力を修得する。</p> <p>(3) 学修成果の評価 ディプロマ・ポリシーに示す4つの区分ごとに最終到達目標と卒業時到達度をカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定によりその達成状況を評価する。なお学修成果を総合的に判断し評価する指標として、GPAを活用する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/nurse.html）</p>
<p>(概要) 看護学部の教育目的を理解し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学後の修学に必要な基礎的能力、コミュニケーション力、及び目的意識と学ぶ意欲を持ち、入学を希望する次のような人を、多様な入学者選抜方法により受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 高等学校の教育課程である国語・数学・理科の基礎科目を幅広く習得し、入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 (2) 高等学校までの履修内容を通じて、聞く・話す・読む・書くというコミュニケーションの基礎的な能力を身に付けている。 (3) 主体的に学習できる姿勢を持ち、予習・復習等の学習時間を確保する習慣がある。 (4) 高等学校の部活等で対人関係作りの基礎づくり経験があり、感性豊かで、人と関わりあうことが好きである。 (5) 看護職に就き、社会貢献したいという明確な意思を持ち、ボランティア経験や地域社会における体験活動に参加したことがある。

<p>学部等名 学芸学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/1_kyouiku.pdf）</p>
<p>(概要) 学芸全般の幅広い分野について、深く、学際的に教育研究し、地域社会、国際社会に貢献する人材育成を目的とする。人間を育て地域を育てる人間性豊かな教育者の養成を理念とし、学部に設置した子ども学科と音楽学科の連携により、高い専門技術と人間理解力・教育力を基盤とし、地域文化・地域教育へ貢献するとともに、人と人とのつながりである地域共同体の文化の発展に寄与できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/gakugei.html）</p>
<p>(概要) 所定の124単位以上を修得し、以下に挙げることを身に付けた学生に卒業を認定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間理解に基づく豊かな人間性と社会性を身に付けており、地域貢献の実践に参与し、発揮する力を有している。 (2) 子どもや音楽に関する領域の専門力を身に付け、実践する力や演奏する力を有している。 (3) 子どもや音楽に関する諸問題を総合的に考察し、地域社会における諸問題を解決する力を有している。 (4) 子どもや音楽に関する諸問題に対処するために、実践的に関与する諸力を有している。 (5) 地域の教育文化や音楽文化に貢献できる指導力、応用力を身に付け、文化形成に寄与する力を有している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/gakugei.html）</p>

<p>(概要)</p> <p>学芸学部の教育目的「高い専門技術（子ども・子育て支援技術、演奏技術）と人間理解力・教育力を基盤とし、人間を育て地域を育てる人間性豊かな教育者の養成を理念とし、学芸全般の幅広い分野について、深く、学際的に教育研究し、地域社会、国際社会に貢献する人材育成を目的とする」を達成するために、ディプロマ・ポリシーに従い、学習者の主体的な学びを重視したカリキュラムを編成する。</p> <p>(1) 学修方法</p> <p>授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかにより、アクティブ・ラーニングを取り入れ、実践を通じた学修を行う。また、授業ごとに、週1～2回の予習復習を行うこととする。</p> <p>(2) 学修内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 初年次には「フレッシュマンセミナー」「基礎ゼミナール」を必修とし、学修方法や大学生活に必要な知識・技能・表現力の修得を図る。 2) 外国語、人文、社会、自然、環境科学に関する広く深い教養を修得し、子ども学、音楽に関連する領域の専門性の拡充するための科目を配置する。 3) 学科の専門の中核となる科目として、必修の科目群を配置する。 4) 各学科の専門科目の科目履修を通して、自らのキャリア、進路に合わせて多角的、総合的、体系的な学修をするために必要な科目を配置する。 5) 地域社会に貢献できる実践力や表現力を修得及び学修し、多彩な実習、実技科目を配置する。 <p>(3) 学修成果の評価</p> <p>ディプロマ・ポリシーに基づき、各授業科目の位置付けをカリキュラムマップで示し、各授業科目について「最終到達目標」への到達状況を評価する。なお、学修成果を総合的に判断し、評価する指標として、GPAを活用する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/gakugei.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>学芸学部の教育目的を理解し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学を希望する次のような人を、多様な入学選抜方法により受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 入学後の修学に必要な基礎学力（知識、技能等）を有している。 (2) 自らの思考や実践を多面的、客観的に判断でき、活動や発表会・演奏会等の表現活動の実績を持っている。 (3) 自らの思考やイメージを表現し、伝えることができ、活動や演奏の経験を有している。 (4) 子どもや音楽に旺盛な関心や意欲を主体的に持ち、子どもに関わるボランティア経験や音楽に関わる演奏経験を有している。 (5) 地域の教育文化や音楽文化に貢献する意欲や熱意があり、地域の施設等における体験活動に参加したことがある。
<p>学部等名 人間健康学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/1_kyouiku.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>「究理実践」の精神に基づき、豊かな人間性と総合的な判断力を培うと共に、スポーツ、健康、福祉分野の専門知識と応用技術をもって地域社会及び国際社会の発展に貢献する人材を育成することを教育上の目標とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/sports.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>人間健康学部スポーツ健康福祉学科では、所定の 124 単位を修得し以下に挙げることを身に付けた学生に卒業を認定し、学士（健康学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 主体的に学修する真摯な態度を有し、幅広い教養と豊かな人間性・社会性を身に付け、物事を多角的にとらえることができる。 (2) 人間の健康についてスポーツ健康及び健康福祉に関する専門的な知識に基づいて、関心のある事象に対して科学的に考えることができる。 (3) 人間の健康について身に付けた知識・技能等を総合的に活用し、理論の探求と実践を行うことにより今日的課題の解決に取り組むことができる。 (4) 社会人に必要な創造力、計画力、実行力、コミュニケーション能力、チームワーク力を修得し、地域における教育やスポーツ及び福祉の現場で活躍できる力を有している。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/sports.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>人間健康学部スポーツ健康福祉学科の教育目的「対話による教育実践を通じて個性豊かな人間性を養い、スポーツ、福祉、そして健康に係る専門的知識と技能の教育研究を行い、すべての人々の健康的な生き方についての支援と相談ができる人材、及び健康・体力づくりを実践レベルで促進できる人材育成を目的とする。」を達成するために、次のことを意図したカリキュラムを編成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学修方法 <ul style="list-style-type: none"> 授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかにより、アクティブ・ラーニングを取り入れ、実践を通じた学修を行う。また、授業ごとに週 1 ～ 2 回の予習復習を行うこととする。 (2) 学修内容 <ul style="list-style-type: none"> 1) 初年次には、「人間健康学基礎演習」及び「フレッシュマンセミナー（文化に生きる）」を必修とし、学修方法や大学生活に必要な知識・技能・表現力の修得、及び広島文化学園大学の学生としてのアイデンティティの涵養を図る。また、キャリア形成力育成の為にキャリアデザイン科目群を配置する。 2) 幅広い教養と豊かな人間性・社会性を涵養するために、多様かつ調和のとれた教養科目を配置する。 3) 学科の専門性の中核となる科目として、必修の専門コア科目及びアダプテッド・スポーツ科目を配置する。 4) 健康に関する体系的な知識を身に付け、それらを応用することによってスポーツ健康、健康福祉、及びアダプテッド・スポーツの分野において実践・指導する能力を養うために専門教育を配置する。 5) 多彩な演習・実習科目群により、スポーツ健康と健康福祉に必要な技術の修得及び実践力の育成を図る。 (3) 学修成果の評価 <ul style="list-style-type: none"> ディプロマ・ポリシーに基づき、各授業科目の位置付けをカリキュラムマップで示し、各授業科目の単位認定により「最終到達目標」への達成状況を評価する。なお、学修成果を総合的に判断し、評価する指標として、GPA を活用する。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/sports.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>人間健康学部スポーツ健康福祉学科の教育目的を理解し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学を希望する次のような人を、多様な入学選抜方法により受け入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 入学後の修学に必要な基礎学力（知識、技能等）を有している。 (2) 健康を科学的観点からとらえ、地域社会における健康づくりに関心がある。 (3) スポーツや福祉に関心をもち、人間形成やコミュニティの再生、あるいは新たな人

<p>間の健康を探究し、地域において活躍する意欲がある。</p> <p>(4) スポーツや福祉に関する専門職を目指し、人間の健康のあり方を創造・実践する意欲がある。</p> <p>(5) 障害者や高齢者の健康とスポーツに関心をもち、人間として優しさや思いやりの心を醸成し、共生社会の実現・発展に貢献する意欲がある。</p>

<p>学部等名 社会情報学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/1_kyouiku.pdf</p>
<p>(概要)</p> <p>経済、環境、情報、福祉、健康づくりに関わる領域について、社会系、人文系、自然系諸科学を用いて総合的に教育研究し、かつ地域社会、国際社会に貢献する人材育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/social.html</p>
<p>(概要)</p> <p>社会情報学部では、所定の 124 単位以上を修得し、以下に挙げることを身に付けた学生に卒業を認定し、学士の学位を授与する。</p> <p>(1) グローバルビジネスや健康福祉を推進する専門的な知識、技術を身に付けている。</p> <p>(2) グローバルビジネスや健康福祉を推進する専門職として、豊かな感性、人間性を身に付けている。</p> <p>(3) グローバルビジネスや健康福祉を推進する専門職として、コミュニケーションスキル、リーダーシップ、問題解決能力、自己教育力を有している。</p> <p>(4) グローバルビジネスや健康福祉を推進する専門職として、身に付けた知識・技能・態度等を総合的に活用し、地域社会及び国際社会の発展に貢献することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/social.html</p>
<p>(概要)</p> <p>社会情報学部の教育目的「経済、環境、情報、福祉、健康づくりに関わる領域について、社会系、人文系、自然系諸科学を用いて総合的に教育研究し、かつ地域社会、国際社会に貢献する人材育成を目的とする」を達成するために、次のことを意図したカリキュラムを編成する。</p> <p>(1) 学修方法</p> <p>授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかにより、アクティブ・ラーニングを取り入れ、実践を通じた学修を行う。また、授業毎に、週 1 ～ 2 回の予習復習を行うこととする。</p> <p>(2) 学修内容</p> <p>1) 初年次には「フレッシュマンセミナー」を必修とし、広島文化学園大学の学生としてのアイデンティティの涵養、学修方法や大学生活に必要な知識・技能・表現力、及びキャリア形成力の修得を図る。</p> <p>2) 幅広い教養と豊かな人間性・社会性を涵養するために、多様かつ調和のとれた教養科科目を配置する。</p> <p>3) 各学科での学修の共通基盤となる学部共通科目を設置する。</p> <p>4) 各学科で、学生自らのキャリア、進路に沿って、多角的、総合的、体系的な修得を図る専門科目を配置する。</p>

<p>5) 多彩な実習科目を配置し、地域社会及び国際社会に貢献できる実践力の育成を図る。</p> <p>(3) 学修成果の評価</p> <p>ディプロマ・ポリシーに基づき、各授業科目の位置付けをカリキュラムマップで示し、各授業科目について「最終到達目標」への到達状況で単位を認定する。その際、試験、レポート、学修態度等により、事前に示した割合で評価する。なお、学修成果を総合的に判断し、評価する指標としてGPAを活用する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/policy/social.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>社会情報学部の教育目的を理解し、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを踏まえて、入学を希望する次のような人を、多様な入学者選抜方法により受け入れる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 入学後の修学に必要な基礎学力（知識、技能等）を有している。 (2) 社会の出来事について、主体的に考え、判断することができる。 (3) グループ学習、クラブ活動、ボランティア活動、地域貢献活動などを経験し、他者と一緒に活動していくことができる。 (4) グローバルビジネスや健康福祉に興味や関心を持ち、専門職として活躍したいと考えている。

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/index_top.html</p>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
看護学部	—	16人	12人	8人	0人	4人	40人
学芸学部	—	12人	10人	2人	1人	0人	25人
人間健康学部	—	9人	6人	4人	0人	1人	20人
社会情報学部(募停)	—	2人	1人	0人	0人	0人	3人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		286人					287人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/index_top.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
FD委員会規程に基づき、学生による授業評価アンケート、授業公開・授業参観、授業担当者意見交換会、FD研修会等を行っている。FD研修会では、外部講師を招いての実践的な研修や、各学科の授業実践報告等を行い、アクティブ・ラーニングの推進を始めとした全学的な教育の質向上を目指した取組を行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
	人	人	%	人	人	%	人	人
看護学部	130人	80人	61.5%	540人	420人	77.8%	8人	4人
学芸学部	120人	95人	79.2%	510人	443人	86.9%	15人	2人
人間健康学部	120人	129人	107.5%	515人	518人	100.6%	15人	2人
社会情報学部 (募停)	0人	0人	0%	0人	17人	—	0人	0人
合計	370人	304人	82.2%	1,565人	1,398人	89.3%	38人	8人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
看護学部	109人 (100%)	0人 (0%)	102人 (94%)	7人 (6%)
学芸学部	75人 (100%)	1人 (1.3%)	69人 (92.0%)	5人 (6.7%)
社会情報学部	112人 (100%)	0人 (0%)	73人 (65.2%)	39人 (34.8%)
合計	296人 (100%)	1人 (0.3%)	244人 (82.5%)	51人 (17.2%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
【看護学部】 中国労災病院、J A 広島総合病院、山崎病院、広島市立病院機構、呉医療センター、 ふたば病院、東広島医療センター、広島県立障害者リハビリテーションセンター、 瀬野川病院、J A 吉田総合病院、J R 広島病院、順天堂大学医学部附属浦安病院、 日本大学医学部附属板橋病院				
【学芸学部】 学校法人川原学園 東京動物専門学校、広島県内公立学校教員、広島市内公立学校教員、 島根県・山口県・広島県公立保育士、広島県警察、広島県警音楽隊、自衛隊幹部候補生、 陸上自衛隊音楽隊、大之木建設(株)、広島トヨペット(株)、ハローワーク、(株)奏音、 島村楽器(株)、P&G プレステージ合同会社(SK-II)、日本写真判定(株)、広島総合警備保障				
【社会情報学部】 広島県職員(社会福祉)、JFE スチール(株)西日本製鉄所、(株)エブリイ、(株)山形銀行、 (株)ロジコム、広島市社会福祉協議会、医療法人有信会 呉記念病院、社会福祉法人三篠会、 尾道さつき会、救世軍愛光園				
(備考) 社会情報学部は留学生を含む				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
看護学部	123人 (100%)	102人 (83.0%)	10人 (8.1%)	11人 (8.9%)	0人 (0%)
学芸学部	82人 (100%)	71人 (86.6%)	7人 (8.5%)	3人 (3.7%)	1人 (1.2%)
社会情報学部	114人 (100%)	84人 (73.7%)	3人 (2.6%)	25人 (21.9%)	2人 (1.8%)
合計	319人 (100%)	257人 (80.6%)	20人 (6.3%)	39人 (12.2%)	3人 (0.9%)
（備考）社会情報学部は留学生を含む					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業計画（シラバス）の作成については、4学部共通した取組みを行っている。 ○ 毎年12月に授業担当者に対して本学所定の様式による授業計画（シラバス）作成を依頼する。その際、「シラバス作成上の注意事項」を全員に配布し、「授業の目的」「授業計画」「最終到達目標」「評価方法（複数の指標を使用する場合はその比率数値）」「予習復習の学習方法」「教科書・参考書」を必須記載事項としている。 ○ 翌年2月に教育課程委員会で「シラバスチェックリスト」に基づいて記載内容を確認し、加筆修正等が必要な場合は、授業担当者による修正を経て次年度のシラバスを確定している。 ○ シラバスは、4月1日付けで大学ホームページに公表するとともに、学生に対しては「履修の手引き」及び学内WEBで提示して、シラバスを確認した上で履修計画を立て履修登録を行うよう指導している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 4学部に通じて以下のような取組みを行っている。 ○ 学習意欲の把握については、毎回の授業で出席を確認し、授業ごとの学生のコメントシートを回収するほか、授業での質疑応答への積極的な参加、事前・事後学習の成果の提出状況等により、個々の学生の状況を理解している。 ○ 学修成果の評価については、厳格かつ適正な成績管理が行われるように、アセスメント・ポリシーにおいて大学レベル・学部・学科レベル・科目レベルで基本的な評価方針を定めている。 ○ 各科目の評価については、シラバスに表記された試験やレポート等の評価方法・基準に基づき、授業担当者が厳格かつ適正に評価し単位を認定している。また出席管理を厳格に行い、3分の2以上出席していない者には、単位修得を認めていない。これらの単位認定の方針は、「履修の手引き」に明記し、毎年4月のオリエンテーションで学生に周知している。○「学修の評価」に関する規定は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 試験等の評価は、秀(S)、優(A)、良(B)、可(C)、不可(D)をもって表し、可以上を合格とする。 (2) 成績と評価基準は次のとおりとする。100～90点秀、89～80点優、79～70点良、
--

69～60 点可、59～0 点不可。

(3) 不合格の場合、再試験受験願を提出し、認められれば再試験を受けることができる。

○大学として、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」を定め、ホームページで公表している。ディプロマ・ポリシーの内容は以下のとおりである。

「広島文化学園の建学の精神「究理実践」に基づき、深く専門の学術を教授研究するとともに、豊かな人間性と総合的な判断力を身に付けた学生に学士の学位を授与する。」卒業時に修得すべき資質能力の柱は以下の3本である。

(1) 深い教養と人間性を有し創造的態度と志向性を有している。

(2) 対人援助に係る専門的な知識・技術や問題解決能力、思考力を有している。

(3) 地域の教育、文化、支援など、社会に積極的に貢献できる指導力、応用力を有している。

○ディプロマ・ポリシーに基づいて卒業を認定するために、大学レベル・学科レベル・科目レベルの3段階で、学生の学修成果を評価するための方針・内容・方法等を定める「学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）」を策定し、ホームページで公表している。

○卒業要件単位数は、社会情報学部、学芸学部、人間健康学部は124単位、看護学部は126単位である。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
看護学部	看護学科	126 単位	有	24 単位
学芸学部	子ども学科	124 単位	有	23 単位
	音楽学科	124 単位	有	23 単位
人間健康学部	スポーツ健康福祉学科	124 単位	有	23 単位
社会情報学部	健康福祉学科	124 単位	有	23 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：ホームページ http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/pdf/gpa_univ.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ <http://www.hbg.ac.jp/life/campusguide.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
看護学部	看護学科	1,000,000 円	250,000 円	500,000 円	1 年次～2 年次
		950,000 円	—	500,000 円	3 年次～4 年次
学芸学部	子ども学 科	730,000 円	250,000 円	250,000 円	1 年次～2 年次
		700,000 円	—	250,000 円	3 年次～4 年次
	音楽学科	890,000 円	250,000 円	430,000 円	1 年次～2 年次
		860,000 円	—	430,000 円	3 年次～4 年次
人間健康 学部	スポーツ健康	730,000 円	250,000 円	300,000 円	1 年次～2 年次
	福祉学科	700,000 円	—	300,000 円	3 年次～4 年次
社会情報 学部	健康福祉 学科	700,000 円	—	250,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学が行っている学生の修学に係る支援に関する取組として、(1)学園奨学金制度、(2)授業料の延納分納制度がある。(1)学園奨学金制度のうち全学共通のものとして、①成績優秀者特別奨学金(学業成績、学生生活の状況等を総合的に考慮して選考)、②社会人特別奨学金(社会人特別選抜で入学した人が対象)、③家族入学特別奨学金(兄弟姉妹が本学園の卒業生または在学生、両親のどちらかが本学園の卒業生)がある。学科独自のものとして、音楽特別奨学金、スポーツ特別奨学金がある。(2)授業料の延納分納制度は、学則の規定に基づき特別の事情があると認められた者について、月額分納又は延納を認める制度である。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) すべての学生の夢の実現を目指して、学生一人一人にしっかりとした職業観や人生観、生きる力、教養を身に付けさせ、希望する進路実現が図られるよう、就職・キャリア支援センターを中心とした全学的な就職キャリア支援体制の充実を図り、進路選択に係る支援に関する取組を行っている。具体的な取組として、(1)就職・キャリア支援センター、就職・キャリア支援委員会、学科、チューターの連携体制による学生に対する継続的な支援・指導の実施、(2)就職ガイダンスの充実(マナー講座、学生の自己分析、履歴書等書類作成指導、面接対策、採用担当者による職種説明、卒業生による説明会等)、(3)企業情報等の収集と情報提供、(4)資格等取得の支援(看護師国家資格取得支援、教員採用試験支援、各種資格取得の推進等)、(5)進学情報提供・受験支援等を行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 入学から卒業まで安心して充実した学生生活を送ることができるよう、学生生活支援センターを中心とした全学的な支援体制により、学生生活全般を支援している。学生の心身の健康等に係る支援に関する取組としては、(1)保健室・臨床心理士カウンセラー・学生部・学科チューター等の連携・協力による学生相談、(2)保健室を中心とした定期健康診断の実施と事後指導、けがや病気の応急処置等の健康管理、(3)障害学生支援委員会を中心とした障害学生支援の実施等がある。また、学生の心身上の課題が授業への欠席として現れることが多いため、連続欠席学生に対する学科による組織的な早期対応等に取り組んでいる。チューターによる学生支援では、HBG 夢カルテを活用して個々の学生を良く理解

した上で、学生に対する適切な個別支援の充実に努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.hbg.ac.jp/info/jouhoukoukai/index_top.html

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F134310109946
学校名	広島文化学園大学
設置者名	学校法人 広島文化学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		173人	164人	176人
内 訳	第Ⅰ区分	97人	94人	
	第Ⅱ区分	46人	41人	
	第Ⅲ区分	30人	29人	
家計急変による支援対象者（年間）				
合計（年間）				176人
(備考) 日本学生支援機構給付奨学金のみの対象者：第Ⅰ区分（前半期）2名、第Ⅰ区分（後半期）1名 ：第Ⅱ区分（前半期）1名含む				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
G P A等が下位4分の1	28人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	16人		
計	35人		
(備考) 「出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況」の16名のうち、9名については「G P A等が下位4分の1」についても警告あり			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。